

チーム医療の具体的実践事例

提出委員名 堀内 成子 委員

チーム（取組）の名称 院内助産所・助産師外来
チームを形成（病棟を独立配置）する目的 妊婦の多様なニーズに応え、地域における安全・安心・快適なお産の場を確保するとともに、産科病院・産科診療所において助産師を積極的に活用し、正常産を助産師が担うことで産科医師の負担を軽減する。
チームによって得られる効果 妊産婦 ・妊婦のニーズに合った対応が可能 ・待ち時間が減る 医師 ・ハイリスク患者の治療に専念できる 助産師 ・専門性を高めることができ、責任感とやり甲斐、喜びを感じる等職能を活かせる。
関係する職種とチームにおける役割・仕事内容 産科医師：産科外来での妊婦健康診査、分娩管理 助産師：助産師外来で妊婦健康診査と健康相談・支援、 産科外来で健康相談・支援、 院内助産所での分娩管理と産後支援、新生児の健康診査、母乳支援 (参考) 院内助産ガイドライン 医師と助産師の役割分担と協働（平成20年度厚生労働科学特別研究事業 助産師と産科医の協働の推進に関する研究 分担研究）
チームの運営に関する事項 ・医師と助産師は、電子カルテや合同カンファレンスにより情報共有を行う。 ・産科外来で医師が妊婦健康診査、助産師が健康相談を行い、妊婦のニーズに基づき院内助産・助産師外来の適応を判定する。 ・助産師は助産師外来で妊婦の健康診査、院内助産所で分娩支援、助産師外来で産後の健康診査・母乳支援を行う。ただし、基準に従い、必要時、医師への診察依頼を行う。
具体的に取り組んでいる医療機関等 深谷赤十字病院、咲花病院、葛飾赤十字産院、愛仁会千船病院、 諏訪マタニティクリニック、県西部浜松医療センター、大田原赤十字病院 山口赤十字病院、済生会宇都宮病院

チーム医療の具体的実践事例

提出委員名 堀内 成子 委員

チーム（取組）の名称	助産所または診療所と高次医療機関
チーム（連携強化）を形成する目的	地域における安全・安心・快適なお産の場を確保するとともに、助産所または産科診療所で助産師を積極的に活用し、正常産を助産師が担うことによって、妊婦の多様なニーズに応え、家族の健康づくりに貢献する。
チームによって得られる効果	<p>妊産婦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦のニーズに合った対応が可能 ・正常経過であれば、顔なじみの助産師・医師からの診療・ケアが可能 ・異常に移行した場合、迅速に対応可能 <p>医師（高次医療施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク患者の治療に専念できる <p>助産師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高めることができ、責任感とやり甲斐、喜びを感じる等職能を活かせる。
関係する職種とチームにおける役割・仕事内容	<p>助産所の助産師：正常経過の妊婦健診・分娩介助・産後健診・母乳支援・新生児健康診 査・家庭訪問、積極的な日常生活上の養生による異常の予防</p> <p>嘱託医・嘱託医療機関：正常経過におけるポイント健診、異常発生時の診断と治療</p> <p>診療所の助産師：正常経過の妊婦健診・分娩介助・産後健診・母乳支援・新生児健康診 査・家庭訪問、積極的な日常生活上の養生による異常の予防</p> <p>高次医療機関：異常発生時の転院・搬送の受入</p> <p>（参考）助産所業務ガイドライン（2009年改訂版 社団法人 日本助産師会）</p>
チームの運営に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・医師と助産師は、電子カルテや合同カンファレンスにより情報共有を行う。 ・助産師は、正常経過であることを妊娠・分娩・産褥・新生児期を通じて助産診断する。異常を早期に発見し、速やかに嘱託医療機関へ転院・搬送の依頼を行う。 ・助産所および診療所は、あらかじめ高次医療機関との間で、転院・搬送に関する取り決めを行い、連絡・報告等の情報交換を円滑にする。
具体的に取り組んでいる医療機関等	<p>毛利助産所・山本助産所・宮下助産所・豊倉助産所 聖路加産科クリニック</p>